

就学時から卒業後までを見通した 特別支援教育について



調布市教育委員会

内 容

- ・なぜ就学前から卒業後までを見通す必要があるのでしょうか？
- ・子どもの発達は“今”だけでは見ない
- ・通常の学級にも支援が必要な子はいます
- ・子どもの成長を支える3つの視点
- ・支援による変容の可能性に着目しましょう
- ・有効な支援を考える上での2つのポイント
- ・有発達に影響する4つの要素
- ・障害に応じた支援内容・方法
- ・通常の学級で受けられる支援（合理的配慮）
- ・通常の学級で受けられる支援（デイジー教科書）
- ・学校における支援のイメージ
- ・通級・特別支援学級・特別支援学校ではカリキュラムがちがいます
- ・判断は診断名だけでせずプロセスを重視します
- ・学校と保護者が同じ方向を向くために
- ・就学先を決めるためではなく、わが子に合う学び方を考えるために
- ・まとめ

なぜ就学前から卒業後までを見通す必要があるのでしょうか？

児童・生徒について、一人一人の障害の種類や程度を知るだけでなく、発達の状態等に応じた最もふさわしい教育を行っていくためにその児童・生徒のライフステージを見通し、可能性を最大限に伸長する視点から理解を図る必要があります。



(東京都教育委員会、「令和7年度版就学相談の手引」障害のある児童・生徒の理解より)

子どもの“今”だけでなく、“これから”の成長を見据えることが大切です

子どもの発達は“今”だけでは見ない

成長はつながっています。未来を見据えて、今できることを大切に。



就学前
(0～6歳)

基本的な生活習慣や
人との関わりを
育てる時期

小学校
(6～12歳)

学ぶ楽しさを感じ、
できることを
増やす時期

中学校
(12～15歳)

自分らしさを見つけ、
将来に向けて
力を伸ばす時期

高校・高等部
(15～18歳)

進路を考え、
社会に向けて
準備する時期

卒業後
(18歳～)

社会の中で自分らしく
生きていく力を
発揮する時期



安心できる関わりが、
「自分は大切な存在」
という土台になります。

「わかった!できた!」の
積み重ねが、
自信につながります。

得意なことや好きなことを
見つけることが、
将来の力になります。

経験の幅を広げることが、
自分で選び、決める力に
つながります。

一人ひとりのペースで、
自分らしい生き方を
実現していきます。



大切なのは…

今の困りごとだけでなく、**未来の可能性**に目を向けること。
その子のペースに合わせて、**切れ目のない支援**をつなげていきましょう。

通常の学級にも支援が必要な子はいます

小中学校で「**学習面または行動面で著しい困難**」を示す児童生徒は **8.8%**（令和4年度）

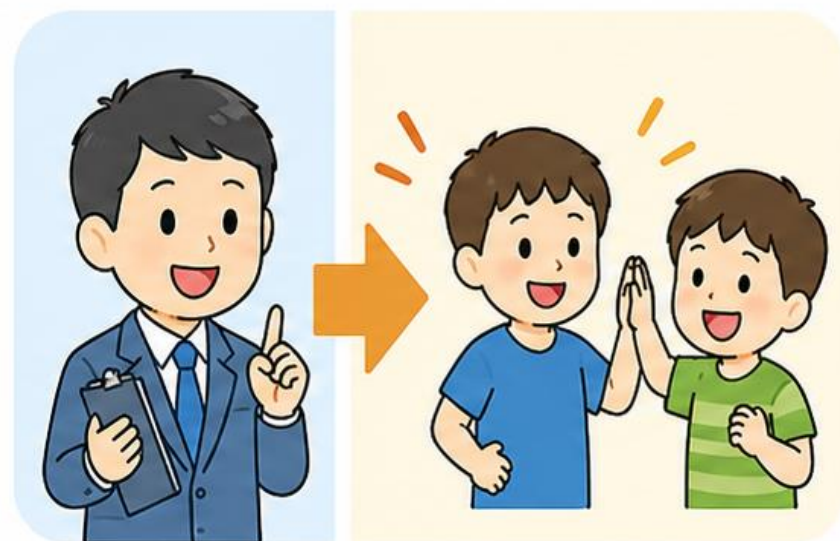


項目	令和4年	
	小学校・中学校	高校
学習面または行動面で著しい困難を示す。	8.8%	2.2%
学習面で著しい困難を示す。	6.5%	1.3%
「聞く」または「話す」に著しい困難を示す。	2.5%	0.5%
「読む」または「書く」に著しい困難を示す。	3.5%	0.6%
「計算する」または「推論する」に著しい困難を示す。	3.4%	0.6%
行動面で著しい困難を示す。	4.7%	1.4%
「不注意」または「多動性－衝動性」の問題を著しく示す。	4.0%	1.0%
「不注意」の問題を著しく示す。	3.6%	0.9%
「多動性－衝動性」の問題を著しく示す。	1.6%	0.2%
「対人関係やこだわり等」の問題を著しく示す。	1.7%	0.5%
学習面と行動面ともに著しい困難を示す。	2.3%	0.6%

文部科学省「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」より

支援が必要なのは“特別な子”ではありません

子どもの成長を支える3つの視点



実態

ニーズ

支援

わが子の①実態、②教育的ニーズ、③必要な支援を考えることが大事

支援による変容の可能性に着目しましょう



支援によって子どもは変わる → どの場が“伸びる環境”かを考える

有効な支援を考える上での2つのポイント

- 1 発達に影響を与える要素
- 2 障害に応じた学習内容・方法

発達に影響する4つの要素

- **認知面**：理解のスピード、抽象化の難しさ
- **言語・コミュニケーション**：表出・理解のしやすさ
- **社会性・行動面**：集団参加、感情調整
- **感覚・身体面**：過敏／鈍麻、疲れやすさ、運動のしやすさ

4要素の組み合わせによって必要な支援が変わる

障害に応じた支援内容・方法

- **知的障害**：具体物・視覚支援・繰り返し
- **発達障害**：構造化・見通し・コミュニケーション支援
- **肢体不自由**：ICT・姿勢保持・代替手段
- **病弱**：体調に応じた計画・短時間集中・休息

子どもが“できる”環境を整えることが重要です

通常の学級で受けられる支援（合理的配慮）



○見通しをもちにくい子
→見て分かりやすい
スケジュールの活用



○読むことが苦手な子
→ICT機器の読み上げ
機能の活用



○集中しづらい子
聞こえにくい子
→座席配置の工夫



○文字を判別しづらい子
→見やすいフォントの使用
拡大印刷

合理的配慮は、一人一人の障がいの状態や教育的ニーズに応じて、個別に決定されます。



条件や環境の工夫 成長に合わせて見直せます

通常の学級で受けられる支援（デイジー教科書）

文字がにじむ

思い出して下さい、あなたのクラスにこんな字はいまありませんか。黒板をノートに写し取るのに時間がかかる字、ノートのマスから文字がはみ出してしまったり、本読みがつまりつまずりてしか読めない字、きつといたことと読

文字がゆらく

思い出して下さい、あなたのクラスにこんな字はいまありませんか。黒板をノートに写し取るのに時間がかかる字、ノートのマスから文字がはみ出してしまったり、本読みがつまりつまずりてしか読めない字、きつといたことと読

鏡文字になる

思い出して下さい、あなたのクラスにこんな字はいまありませんか。黒板をノートに写し取るのに時間がかかる字、ノートのマスから文字がはみ出してしまったり、本読みがつまりつまずりてしか読めない字、きつといたことと読

文字がかすむ

思い出して下さい、あなたのクラスにこんな字はいまありませんか。黒板をノートに写し取るのに時間がかかる字、ノートのマスから文字がはみ出してしまったり、本読みがつまりつまずりてしか読めない字、きつといたことと読



兵十がいなくなると、こはは、びんと空の中からとび出して、びくそはへかけつけました。ちよいと、いたずらがしたくなったのです。こははびくの中のをつかみ出しては、はりきり舞のかかっているところまで、下りて川の中を泳ぎ、ほんんはここきました。このとき、こははと音を立てながら、こはは水のへもくこきました。

感覚機能

視覚

聴覚

同期音声

情報の
処理・認知

デイジー教科書では、テキストがハイライトして、その部分を音声で喋ってくれるので、どこを読んでいるかがわかり、見て情報をとることが難しい場合は、音で情報をとることができるため、読みの困難さへの課題へ対応することが容易となります。



公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会 ホームページより引用

デイジー教科書 → 読みの困難さへの課題に対応します

通常の学級で受けられる支援（デイジー教科書）

文字がにじむ

思い出して下さい、あなたのクラスにこんな字はいませんか。授業をノートに写し取るのに時間がかかる。ノートのマスから文字がはみ出してしまふ。本読みがつまりつまずいてしか読めない。予まっというたことと読

文字がゆらく

思い出して下さい、あなたのクラスにこんな字はいませんか。授業をノートに写し取るのに時間がかかる。ノートのマスから文字がはみ出してしまふ。本読みがつまりつまずいてしか読めない。予まっというたことと読

鏡文字になる

思い出して下さい、あなたのクラスにこんな字はいませんか。授業をノートに写し取るのに時間がかかる。ノートのマスから文字がはみ出してしまふ。本読みがつまりつまずいてしか読めない。予まっというたことと読

文字がかすむ

思い出して下さい、あなたのクラスにこんな字はいませんか。授業をノートに写し取るのに時間がかかる。ノートのマスから文字がはみ出してしまふ。本読みがつまりつまずいてしか読めない。予まっというたことと読



兵十がいなくなると、こはは、ひんと雲の中からとひ出し、ひくそはへかけつきました、ちよいと、いたずらがしたくなつたのです。こははひくの中のを魚をつかみ出しては、はりきり眺めかかっているところより、下り手川の岸を目がけ、ほんほんなびこみまわした。どの魚も、こははんと音を立てながら、にこた水の中へもぐりこみまわした。

感覚機能

視覚

聴覚

同期音声

情報の
処理・認知

デイジー教科書では、テキストがハイライトして、その部分を音声で喋ってくれるので、どこを読んでいるかがわかり、見て情報をとることが難しい場合は、音で情報をとることができるため、読みの困難さへの課題へ対応することが容易となります。

公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会 ホームページより引用

デイジー教科書 → 読みの困難さへの課題に対応します

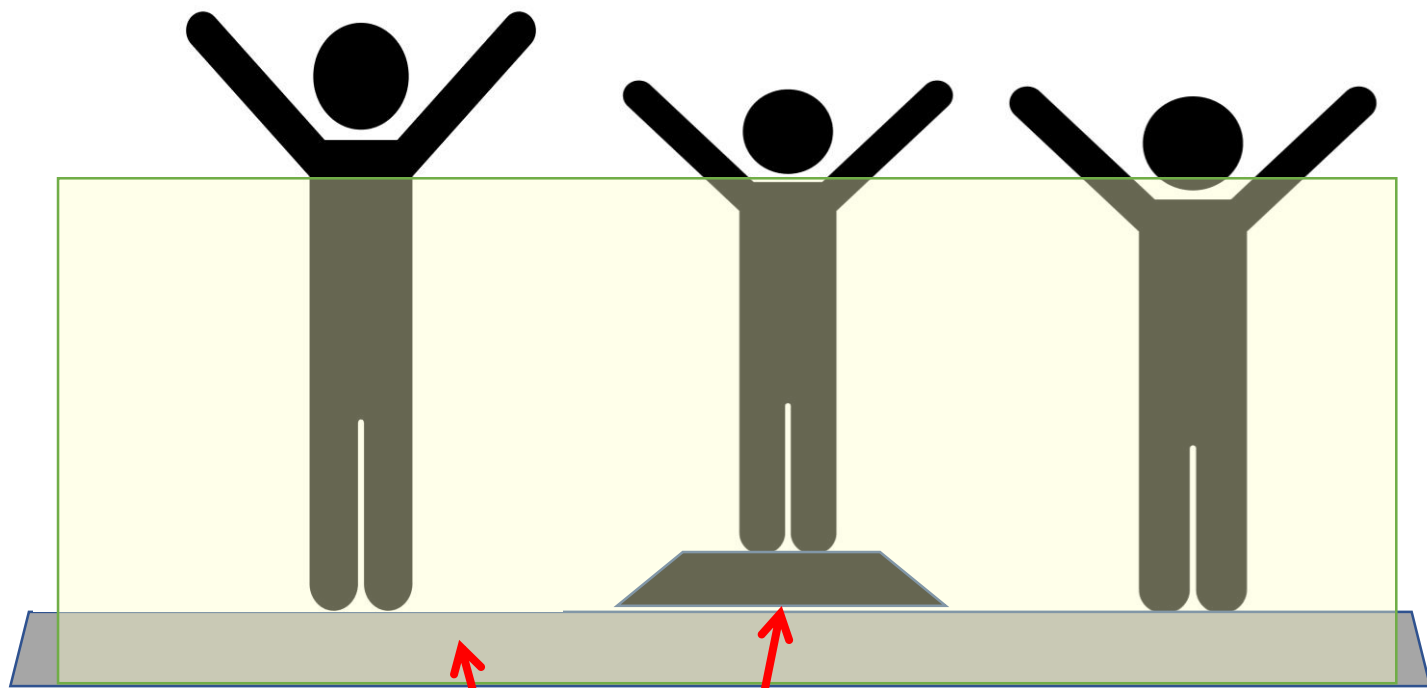


なかなか
いい景色だな！

うーん。
全然見え
ないよー。

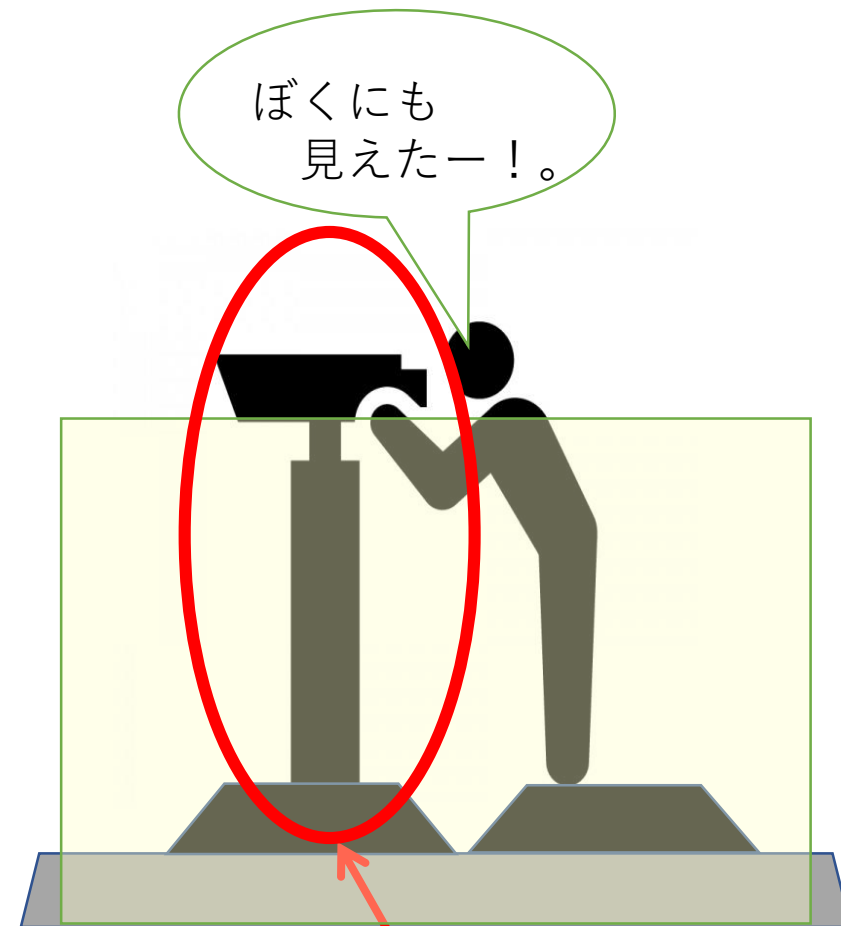
壁で
見えづらいわ。





ユニバーサルデザイン

合理的配慮
・通級における指導



特別支援学級・
特別支援学校に
おける指導



通級・特別支援学級・特別支援学校では、カリキュラムが違います

～ お子さんの特性や必要な支援に合わせて、**学び方**や**学ぶ内容**を工夫しています ～

通級による指導

通常の学級に在籍しながら、必要な指導を一部の時間、別の教室で受けます。

カリキュラムの特徴

お子さんの困り感に応じた、必要な力を個別に伸ばすための指導を行います。

学びのイメージ

通常の学級での学習

通級の時間

通常の学級での学習



(別の教室で指導)

学ぶ内容の例

- ・ことばの理解や表現の力
- ・聞く力や話す力
- ・読み書きの力
- ・気持ちのコントロール
- ・対人関係やコミュニケーションの力 など



通常の学級での学習が中心です

特別支援学級（固定学級）

特別支援学級に在籍し、少人数で、お子さんの特性に応じた学習を行います。

カリキュラムの特徴

お子さんの特性や発達段階に合わせて、教科の内容や学び方を工夫した教育課程で学びます。

学びのイメージ

1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目
国語	算数	生活/ 自立活動	図工	音楽	体育
自立活動	国語	算数	生活単元 学習	学活	道徳



学ぶ内容の例

- ・教科の内容(国語・算数など)を、生活につなげて学ぶ
- ・生活する力や自立する力
- ・コミュニケーションや人との関わり
- ・体験的な学習や、繰り返しの学習 など



特性に応じた教育課程で学びます

特別支援学校

特別支援学校に在籍し、障害の状態や発達段階に応じた専門的な教育を行います。

カリキュラムの特徴

一人ひとりの発達や将来を見据えた、専門性の高い教育課程で学びます。

学びのイメージ

時間割の例(小学部)

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導	生活単元学習	自立活動	国語・算数	生活単元学習
2	国語・算数	自立活動	生活単元学習	音楽	自立活動
3	自立活動	国語・算数	図工	生活単元学習	体育
4	生活単元学習	体育	国語・算数	自立活動	生活単元学習
5	音楽	図工	体育	日常生活の指導	国語・算数
6	学活	学活	学活	学活	学活

学ぶ内容の例

- ・生活に必要な力や自立する力
- ・健康や身体の動かし方
- ・コミュニケーションの力
- ・将来の生活や仕事につながる力
- ・体験的・実践的な学習 など



専門的な教育課程で将来を見据えて学びます

大切なポイント

どの学びの場でも、「できた!」「わかった!」「自分らしく学べる!」を大切にしています。

♡ お子さんに合った学び方で、一歩ずつ力をつけていきましょう。



判断は診断名だけでせずプロセスを重視します

“どの学びの場にするか”は、**そこに至るまでの考え方**
・ **手順**が大事。診断名で判断せず、**実態・ニーズ・支援**
を丁寧に検討することが重要です。

• 診断名だけで判断しない



• 支援による参加の可能性を検討する



学校と保護者が同じ方向を向くために

- お子さんと保護者の思いを大切にします
- わかりやすく丁寧に情報をお伝えします
- 気持ちの整理のペースを大切にします
- 早めの相談が安心につながります



一緒に考えていくことを大切にしています

就学先を決めるためではなく、 わが子に合う学び方を考えるために

就学先を決めることが目的ではありません

通常の学級？



通級による
指導？



特別支援学級
・学校？



どこがいいのかな…
うちの子、大丈夫かな…



大切なのは、わが子に合う学び方を考えること

その子の
得意なことを
伸ばす



安心して
学べる環境を
つくる



必要な支援を
受けながら
学ぶ



自信を育てて
次のステップに
つなげる



将来の自立や
社会参加を
見据える



一緒に考えて
いきましょう



一人ひとりの特性やペースに合わせて、安心して学び、成長していける道と一緒に見つけていきましょう。



まとめ



大切なのは、子どもが安心して学べて自信を持てることです